

2021年度

一般財団法人守谷育英会研究助成候補者応募要項

1. 助成の趣旨・目的

当育英会の研究助成の趣旨・目的は、その研究成果が直接経済効果の対象とならない基礎科学分野に属する研究に対し、特に助成することを考えております。

従って、公的機関、大企業等で行っている先端技術の開発や大規模な研究を対象とするものではありません。

また、「研究助成金」という名称を付けておりますが、育英奨学金が学生の修学を支援することを目的としていると同様に、研究助成金は交付対象者が異なるだけで、研究者の研究を支援することを目的としております。従いまして、本助成金の使途として、研究者の方の所属する組織の研究支援経費、間接経費、一般管理費並びにオーバーヘッド等に使用することは認めておりませんのでご理解下さい。

2. 助成金候補者の資格

助成金候補者は、次の条件を具備する個人とします。

(学部生、大学院生及び研究生は対象外)

- ①東京都内の大学もしくは研究機関に在籍、または東京都内に居住し大学もしくは研究機関に在籍して、基礎的分野の学術研究に従事する個人であること。
- ②申請者の助成金交付の開始時の年齢が、原則として満40歳未満であること。

3. 助成課題（テーマ）

次のとおりとします。

- (1) 自然科学、特に動植物に関する基礎研究
- (2) 工学における基礎研究
- (3) 社会、環境、福祉等に関する基礎研究
- (4) 人文科学における基礎研究

4. 助成金額・交付期間

- ①1件当り助成金額は、年間120万円を標準（1年間の標準限度額）とします。
- ②1件の研究題目に対し認める交付期間は、最大4年程度とします。
- ③助成件数は、年間、5件～10件とします。
- ④今年度の助成金総額は、3,000万円の予定です。

5. 助成金交付申請および推薦方法

- ①当育英会の所定用紙にて申請願います。

研究内容は、専門用語を並べず具体的に分かり易く記入してください。

②推薦者は各大学の学部長、研究所長、または担当主任教授とします。

但し、推薦件数は、1推薦者1件とします。

③交付申請及び推薦の締切日は、2021年12月24日(金)当日の消印まで有効です。

④過年度選考にもれた方も、再度申請することが出来ます。

6. 選考方法

①2022年3月上旬、当育英会の選考委員会による書類審査及び面接の上、代表理事が決定します。

②選考結果は、2022年3月下旬、申請者及び推薦者に対し文書により通知します。

7. 助成金の交付と使用報告

①助成金は交付対象者の指定する銀行の口座に、原則として分割により振込みます。

尚、助成金は分割交付を原則としますので、2回目以降の交付を受ける前に、中間報告書を提出願います。この中間報告がないと、2回目以降の交付を停止することがあります。また、虚偽その他不正な手続きによることが判明した場合は、既に交付した助成金の返還を求めることがありますのでご注意願います。

②助成金の使途は研究目的を達成するために必要なものであれば概ね自由としますが、その使途についての報告書を当育英会宛に提出願います。

③新規の交付対象者の研究期間が2～4年に亘る場合には、最初の1年間の助成金を支給し、翌年度に1年間の研究成果報告書を添付の上、改めて申請書を提出して頂き、研究成果を評価して、2回目以降の助成金を支給するか否かを決定致します。

8. 研究成果の報告

①当育英会に研究成果報告書を提出願います。学术论文の抜刷や、講演会における講演概要でも結構です。

②万が一、当初の予定より研究終了時期が延長する場合は、新しい終了時期・延長理由・助成金残額を報告書に明記願います。尚、延長の場合でも助成金の増額は致しかねますのでご了承下さい。

※ 提出された交付申請書は、ご返却致しかねますのでご了承下さい。

尚、添付資料はご要望によりご返却致します。

※ 申請書は最新版(2021年8月更新)を使用して下さい。以前の申請書は受付致しかねます。

《個人情報の取り扱いに関して》

当財団は、ご提出頂いた申請書に記載された個人情報を、選考や事務連絡に使用致します。また、収集した個人情報は適正に管理し、ご本人の同意なく無断で第三者に提供することは致しません。《応募先および問い合わせ先》

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-4-22

一般財団法人 守谷育英会

TEL: 03-3271-2734

以上

研究助成金交付申請書

一般財団法人 守谷育英会 御中

年 月 日

下記の研究について、助成金の交付を申請します。

氏名 _____

研究分野 (該当に○印)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 自然科学、特に動植物に関する基礎研究 | 4. 人文科学における基礎的調査研究 |
| 2. 工学における基礎研究 | 5. その他上記項目に関する基礎的調査研究 |
| 3. 社会、環境、福祉等に関する基礎的調査研究 | |

研究テーマ

研究目的 (内容はできるだけ平易に記述して下さい。)

研究方法

研究の期間

研究の学術的価値

研究の社会的有用性

この研究は日本又は外国で既に行われていますか。

この研究の終了後、今後の進むべき方向はどのように考えていますか。(希望又は夢でも可)

研究費総額： _____ 年間		合計： _____ 万円（ 確定・見込 ）		
※交付申請書のP1研究の期間と一致させて下さい。				
他機関からの助成（有・無） 有の時		万円	機関名	
助成希望金額		使途予定（具体的に）		
1. 設備備品		万円		
2. 消耗品費		万円		
3. 旅 費		万円		
4. 謝 費		万円		
5. その他		万円		
希望額合計		万円		
交付希望時期	初回（ 年 月）	万円	中間報告書提出予定	
	2回目（ 年 月）	万円	中間報告書 年 月	
	3回目（ 年 月）	万円	中間報告書 年 月	
	4回目（ 年 月）	万円	最終報告書提出予定	
	※1年で120万円を標準限度額とします。		最終報告書 年 月	
この研究に関連する研究に対し、過去3年以内に他機関からあった助成について				
研究機関	研究テーマ	金額	期間	
文部科学省科学研究費				
国公立機関委託研究費				
財団等の助成金				
研究業績（関連する研究論文があれば、抜刷を1部添付して下さい。）※第一筆者は○をつけて下さい。				
年月日	論文または著書のタイトル	第一筆者	掲載紙	主要内容
出席学会				
年月日	学会名	概要		

研究助成事業

助成の対象となった研究テーマは次の通りです。

(1) 2017年度(4件)

- ① 黒曜石の磁気物性による産地分析法の開発
- ② 生物の恒常性を維持する重力感受機構の解明
- ③ 繊維状ウイルスを素材とした液晶性分離膜の創製
- ④ 民俗芸能衣装の製作と民間伝承に関する調査研究 — 「山伏神楽・番楽」翁衣装の事例—

(2) 2018年度(6件)

- ① (5+1) 環化反応を利用したベンゼン環の構築
- ② 制御性T細胞を用いた生体材料に対する免疫・炎症性制御
- ③ 八丈島沖にザトウクジラが来遊する要因の解明
- ④ 古典木彫像修復に際しての復元考察資料の収集と蓄積
- ⑤ 中世の仏像彫刻の彩色における基礎研究
- ⑥ 民俗芸能衣装の製作と民間伝承に関する調査研究 — 「山伏神楽」翁衣装の事例—

(3) 2019年度(5件)

- ① 赤絵磁器の発色制御に関する包括的研究
- ② 江戸時代における藍顔料の再現および化学分析に基づく製造法の最適化
- ③ 層状物質 WTe_2 における量子力学的光起電力効果の基礎研究
- ④ 栄養状態による学習行動変化におけるインスリン作用機序の解明
- ⑤ 歌唱の喜びに関する脳波研究

(4) 2020年度(8件)

- ① 赤絵磁器の発色制御に関する包括的研究～真の赤色の探求に向けて～
- ② 鎌倉時代木彫像の制作技法研究～楽法寺金剛力士像に遺された錐点に類似した痕跡を手掛かりに～
- ③ 繊維状ウイルスの集合化制御とそれに基づく希少金属イオン分離膜の構築
- ④ Mg合金の疲労度と耐食性を向上させるための研究
- ⑤ ほとんど水からなるリン脂質膜フォトニック結晶センサー
- ⑥ 局所的カルシウム流入と神経可塑性、発生分化の関係を調べるための化学的ツールの開発
- ⑦ 電子線高精度制御によるコヒーレントチェレンコフ放射を用いた蓄積共振器型高強度THz光源の開発
- ⑧ 栄養状態による学習行動変化におけるインスリン作用機序の解明